

CNA レポート・ジャパン

Conferencing News & Analysis, Report on Japan market - CNAReportJapan

創刊：1999年12月
発行日：毎月15日・月末
PDFによる発行

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム市場専門トレンドワッチ

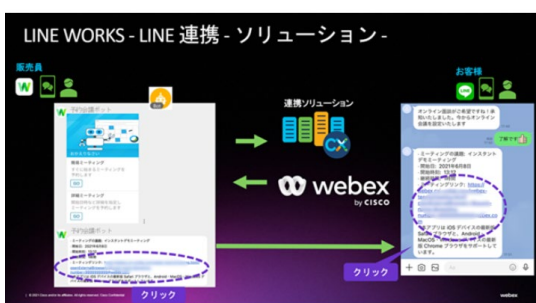
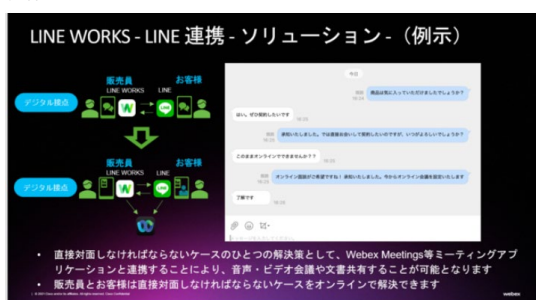
Vol. 23 No.13 2021年7月15日

製品・サービス動向-国内

■ワークスマイモバイルジャパン：「LINE WORKS」、 「Webex」と機能面で連携開始

(PRTIMES:7月13日)

ワークスマイモバイルジャパン株式会社
(<https://line.worksmobile.com/jp/>) (東京都渋谷区)
とシスコシステムズ合同会社 (東京都港区) は、7月13日、「LINE WORKS」と「Webex」が連携開始したと発表。



Webex 機能との連携ソリューション (ワークスマイモバイルジャパン)

今回の連携により、「LINE WORKS」のチャットから、ビデオ通話、資料共有といった Webex の機能がそのまま利用できるようになる。つまり、LINE と LINE WORKS、または LINE WORKS 同士でのビデオ通話や資料共有をはじめとした機能が Webex のアプリケーションをダウンロードせずに利用できるようになる。

また、チャットでビデオ通話 URL を共有することで、すぐにビデオ通話を開始することができると

ともに、チャットなどでのやり取りから、開催日時を決めてビデオ会議の設定を行ったり、ビデオ通話を開始する前にはプレビュー画面で自分の姿を確認することも可能になる。複数での参加が可能で参加者リストから参加者の確認も行えるようになる。

一方、録画も可能で、メモのかわりに活用したり、いつでも都合の良いときに見直すこともできる。録画データはクラウド上に保存され、パスワードつきで管理される形になっている。なお、録画開始は音声で知らせる形になっている。

今後、AIによる強力なノイズ除去機能、ホワイトボード機能、ライブ翻訳機能など新しい機能が LINE WORKS 上でも利用可能となる予定。

■コクヨ：次世代インタラクティブ型コミュニケーションツール「MAXHUB」発売

(PRTIMES:7月1日)

コクヨ株式会社 (<https://www.kokuyo.co.jp/>) (大阪市) は、Web 会議、ホワイトボード、プレゼンテーションの3つの機能を1台の端末で実現する、次世代インタラクティブ型コミュニケーションツール「MAXHUB (マックスハブ)」を7月9日より発売する。

MAXHUB は、モニター・マイク・スピーカーからホワイトボードまで、Web 会議やプレゼンテーションなどに必要な機能が一式揃うオールインワンモデル。オールインワンモデルは、複数の機器の接続や互換性の検証などが不要で、それぞれを個別に購入してセットする煩雑さを解消する利点がある。

MAXHUB は、4800万画素の高解像度カメラ、8m先まで集音可能な高性能マイク、発言者をズームアップする機能などが標準装備されている。



MAXHUB (コクヨ)

また、4K ディスプレイ (65 インチ・86 インチ) はタッチパネル式になっており、ペンや指で滑らかに書き込みが行えるようになっている。また、ボードには画像や動画などマルチメディアファイルを直接挿入でき、会議終了時には PDF・JPEG 形式で保存可能となっている。さらに、付属品の dongle や専用アプリを使用することで、無線での画面共有や最大 6 画面の同時投影が可能になっている。

■PHONE APPLI : PHONE APPLI PEOPLE がクラウド電話サービス「Zoom Phone」と連携開始

(6 月 30 日)

株式会社 PHONE APPLI (<https://phoneappli.net/>) (東京都港区) は、同社が提供する「PHONE APPLI PEOPLE」(旧: 連絡とれるくん) が 6 月 30 日、Zoom Communications 社が提供するクラウド電話サービス「Zoom Phone」と連携開始したと発表した。

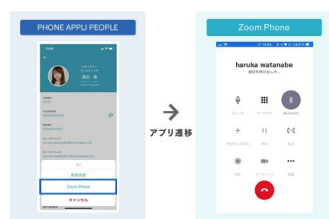
PHONE APPLI PEOPLE は、キーワードやスキルなどで社内の専門家を名刺データから顧客や取引先をそれぞれ簡単に見つけ出し、最適なツール (チャット・メール・電話・Web 会議等) でコミュニケーションがとれ、コラボレーションを活性化する“人”中心のクラウドサービス。

Zoom Phone は、フル機能のクラウド電話システムで、PSTN (公衆交換電話網) を利用した受発信により、既存の電話環境からの移行が可能。PSTN サービスは

45 カ国以上で提供している。また Bring-Your-Own キャリアの仕組みを利用することで、既存の回線契約を維持したままサービス範囲を拡大することも可能となっている。



「PHONE APPLI PEOPLE」から人を検索し、発信(PC版UI)



「PHONE APPLI PEOPLE」から人を検索し、発信(スマートフォンプリアプリ版UI)

Zoom Phone 連携 (PHONE APPLI)

この度、Zoom Phone 連携により、会社支給のスマートフォンや BYOD 端末にインストールされた PHONE APPLI PEOPLE から連絡を取りたい相手を探し、Zoom Phone 電話をかけることで、自身の携帯番号ではなく Zoom Phone の電話番号で連絡を取ることが可能になる。

Zoom Phone の導入・活用をより簡単にし、ユーザにより良い体験を提供する。また、さまざまなコミュニケーションツールの連絡先を管理する PHONE APPLI PEOPLE を活用することで、ツール毎に連絡先を管理する手間を省くことができるという。

ビジネス動向-海外

■Zoom 社：リアルタイム機械翻訳ソリューションの Kites GmbH の買収を発表、シームレスな言語間のコミュニケーションを日常生活の現実にする

(Zoom Blog : 6 月 29 日)

Zoom Video Communications 社 (<https://zoom.us/>) (米国・カリフォルニア州) は、リアルタイム機械翻

訳ソリューションの開発を専門とする Kites GmbH (<http://www.karlsruhe-it-solutions.com/>) (独・カールスルーエ) を買収するための最終合意に署名したことを発表した。

Kites 社は共同創設者である Alex Waibel 博士と Sebastian Stüker 博士が教鞭をとるカールスルーエ工科大学に学術的なルーツを持ち、音声翻訳技術の最新の研究を通して実現可能な製品を開発するという目的を持って 2015 年に設立されたスタートアップ企業。

Kites 社の 12 人の研究科学者からなるチームは、Zoom 社のエンジニアリングチームと共同で機械翻訳の分野での技術を進展させ、ユーザに多言語翻訳機能を提供することを目指す。

機械翻訳ソリューションは、世界中の Zoom のユーザ向けのプラットフォームを強化する上で重要という。Zoom 社は、世界中の人々を簡単につなぐことをミッションとしており、一方、Kites 社も言語の壁を打ち破り、シームレスな言語間のコミュニケーションを日常生活の現実にするのを使命として事業を始めたという。そういった意味では、言語、地理的な場所、その他の障壁に関係なく、コラボレーションを摩擦のないものにするという点で両社の価値観は一致している。

■mmhmm:プレゼンテーションアプリ、B ラウンドの資金調達を実施、シードから今回を含め約 1 億 3,600 万ドルを調達

(mmhmm blog:7月7日)

プレゼンテーションアプリを開発する mmhmm 社 (<https://www.mmhmm.app/jp>) (米国・カリフォルニア州) は、B ラウンドの資金調達を実施したことを発表。

1 年前に最初のプライベートベータ版を発表して以来、にわかに世界的な注目を浴びた mmhmm 社。この度、ソフトバンク・ビジョン・ファンド 2 がリードす

る 1 億ドルの B ラウンド資金調達を実施した。シードラウンドと A ラウンドを合わせると、1 年足らずで約 1 億 3,600 万ドルを調達したことになる。

ソフトバンク・ビジョン・ファンドの他、セコイア・キャピタル、ムバダラ・キャピタル、ヒューマン・キャピタル、ワールド・イノベーション・ラボ (WiL)、初期の投資家が参加している。ソフトバンクの Lydia Jett 氏が、mmhmm 創業者である Phil Libin 氏と、セコイアの Roelof Botha 氏とともに取締役会に参加。また社外取締役として Anita Sands 氏も名を連ねる。

今回得た資金は社員の採用や製品開発、製品統合、サーバインフラなどへ利用されるようだ。

社員の採用についてはグローバルに行っており、今年末までに社員が 100 人を超える予定という。

製品開発においては、Mac 版の mmhmm からスタートしたが、数週間前には、ビジネス向けの機能を追加した Windows 版をリリース。今後は、数週間後には iOS 版、今年後半には Android 版も発表される予定となっている。加えて、今年の夏までに 12 の言語での展開し、その後さらに多くの言語をサポートする計画という。

また、Zoom、Cisco Webex、Google、Microsoft 各社のビデオ会議との統合作業も進めているとブログでは明かした。

導入利用動向-国内

■北國銀行：石川県信用保証協会との「Microsoft Teams」によるコミュニケーションの試行実施

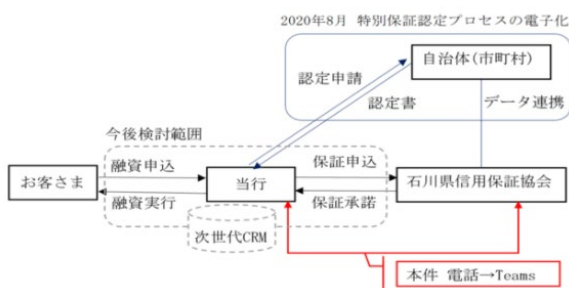
(@Press:7月2日)

石川県信用保証協会 (<http://www.cgc-shikawa.or.jp/>) (石川県金沢市) と株式会社北國銀行 (<https://www.hokkokubank.co.jp/>) (石川県金沢市) は、6 月 28 日から 2 ヶ月間、マイクロソフト社製品

「Microsoft Teams」によるコミュニケーションの試行を開始した。

石川県信用保証協会とは自治体、県内金融機関と協力・連携し、特別保証認定プロセスの電子化により、事業者の資金繰り相談に対して迅速な対応に向けた取り組みを行ってきた。今回の試行は、この取り組みを更に進化、発展させるための一環となる。

北國銀行から石川県信用保証協会への保証申込後、石川県信用保証協会より申込み内容の確認や追加書類の連絡などについて電話で行っており、不在着信や折り返し電話などにより双方にとって生産性が高いとは言えない業務となっているという。



事業者支援に向けた取り組み概要図、電話から Teams へ (北國銀行)

そこで、試行では、「Microsoft Teams」のチャット・通話機能やビデオ会議機能などを活用して、コミュニケーションの円滑化を通じて双方の生産性向上を図る。

今後においても、紙媒体やメールによる保証申込の Microsoft Teams への一元化や現在開発中の次世代 CRM とのデータ連携などを石川県信用保証協会と共に事業者支援を行っていく。

セミナー・展示会情報

<国内>

■【プライベートウェビナー】【ヤマハ】マイクスピーカー「YVC-1000」まるわかり活用術

日時：8月4日(水) 16:00~17:15

会場：オンライン

主催：VTV ジャパン株式会社

詳細・申込：<https://www.vtv.co.jp/seminar/2107vtv/>

■ヤマハウェビナー「Web会議で活用するスピーカーフォン×音声認識ソフトウェア ～茨城県取手市議会事務局様の活用事例紹介～」開催のお知らせ

日時：8月5日(木) 14:00~15:30

会場：オンライン

主催：ヤマハ株式会社

ゲスト：取手市議会事務局、株式会社アドバンスト・メディア

詳細・申込：https://sound-solution.yamaha.com/lp/webinar_202108

■ブイキューブセミナー (8月)

「実践企業が語る！スマートグラスを利用した遠隔作業支援の活用術」など

会場：オンラインセミナー／オンディマンドもあり

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

■Webex Meetings 関連ウェビナー (8月)

「Webex Meetings +Message 新機能と質問コーナー」

「Webex アプリケーション (旧 Webex Teams) の基本：新機能とロードマップ」など (録画も視聴できます)

主催：シスコシステムズ合同会社

詳細・申込：

https://www.cisco.com/c/m/ja_jp/training-events/events-webinars/collaboration-webinars.html

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事のみ）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、それ以外の業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。皆様の情報収集のひとつとしてご活用いただければ有難いです。

■フェイスブック（遠隔会議&UC トレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter（CNA レポート・ジャパン）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dte-forum）

<http://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

定期レポートバックナンバー

定期レポートのバックナンバー（1999 年～最新号）は下記で閲覧できます。

<http://www.cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

CNAレポート・ジャパン 2021年7月15日号おわり

ホームページ: <http://cnar.jp> お問い合わせ: cnar@cnar.jp